

15号

子どもいじめ防止センターだより
ハートフル
～きこえる いっしょに考えよう～

三木市子どもいじめ防止センター
平成30年6月発行

世界から見た日本の評判

平昌オリンピックでスピードスケートの小平選手が金メダルを取った時、銀メダルのイサンファ選手を抱きかかえている場面です。また、その前に、小平選手の世界記録達成のあとの大騒ぎの観客席に向かって「しーっ」と人差し指をたてイサンファ選手の次のレースに気遣った事も韓国では大きな話題になっていました。歴史問題を巡って反日感情(日本の国や文化などに対して反抗する気持ち)が高まる中、小平選手のこの行動は韓国を始め、世界の人々に大きな感動を与えました。



また、東日本大震災の時の事ですが、世界の新聞やテレビは、暴動を起こさずスーパーや食料品店できちんと列を作って物を買って求めている被災者の人達を見て驚いたそうです。放射能の影響がはっきりしない中、原子力発電所の事故現場近くで、日本人が自分の身の危険をかえりみず働いている姿に感銘を受けたそうです。

このように世界の目から見た日本人には、素晴らしい所がたくさんあるようです。しかし、いじめ問題に目を向けてみるとなかなか深刻な状況が続いています。

今回は、世界と日本の違いを考えて、みんなでいじめを無くしていく方法を考えてみたいと思います。

メールでの
相談もできます



三木市子どもいじめ防止センター
電話: 0794-82-8110

相談日 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp

三木市福井 1933-12 三木市立教育センター3階

祝日・12/28～1/4はお休みです

6月から
相談日の変更
になりました

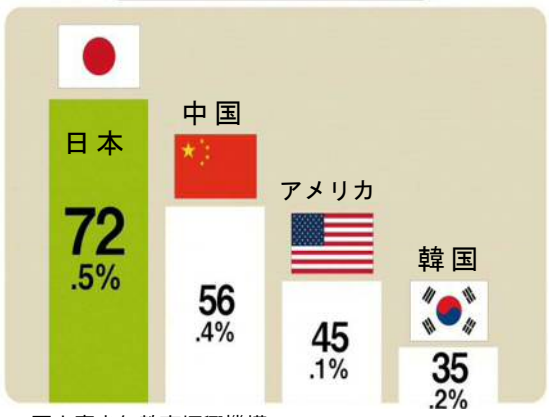


み き し れん ご う し て い こ う け ん き ゅ う は っ ぴ ょ う かい
三木市連合PTA指定校研究発表会が
 へ い せ い ね ん が つ か かい さい
平成30年2月10日に開催されました。

この発表会で、関西学院大学 人間福祉学部教授 桜井智恵子先生に「小さな声にこたえ、いっしょに今を生きぬくために」という講演をしていただきました。その内容をご紹介します。

子どもたちは、学校で同調圧力（周りと同じでなければいけないという場の空気）を感じています。子どもたちは常に空気を読み緊張しているのです。そんな子どもたちに大人は「きちんとしなさい、もっと頑張ろう」と言います。「こうあるべきだ」という圧力の中で子どもたちは意見を言わなくなります。

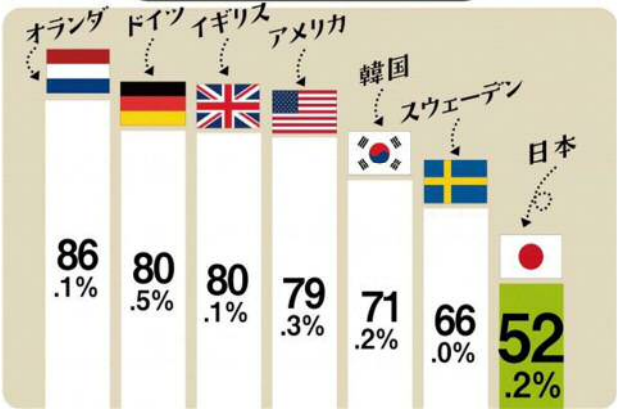
自分はダメな人間だと思う



国立青少年教育振興機構
 「高校生の生活と意識に関する調査報告書」2015

自分がダメだと思う子どもが世界一多い日本の国。全国的に大人も子どもも自分を認めることができない。加害者や観衆（いじめをはやし立てる人）から被害者は「自分はダメな人間だ」と思い込まされ、どんどんエスカレートするいじめを受け、自殺まで追い込まれることが起こっています。

うまくいかかわからないことにも意欲的に取り組む

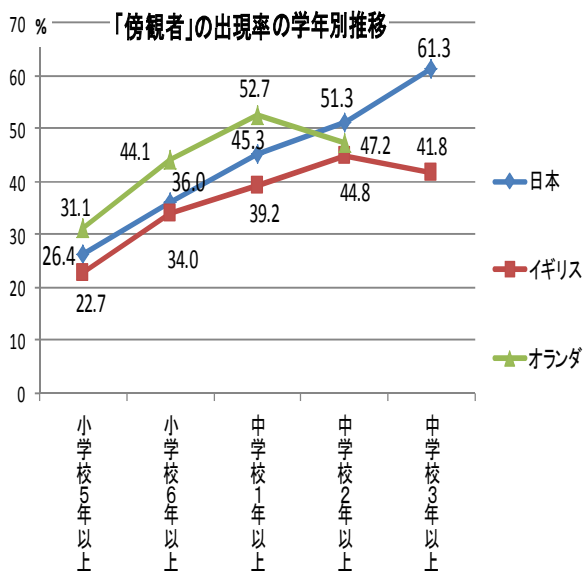


国立青少年教育振興機構
 「高校生の生活と意識に関する調査報告書」2015

「うまくいかないことには意欲的に取り組まない」日本の子ども達。周りの空気を読みながらみんなと同じ行動をとる。ややこしいことをしてはいけない。画一的な子ども達。一歩外れると不登校、発達障害があると言われるたり、引きこもりになることがあります。

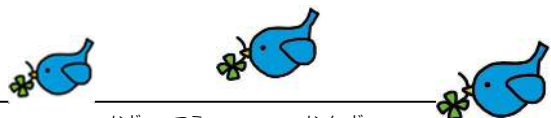
変わったことをしたり、失敗したりすると、仲間はずれにされるなど、いじめの被害者になることもあります。

いじめは被害者（いじめられた子）、と加害者（いじめた子）、観衆（いじめをばやし立てて見ている子）、傍観者（見て見ぬふりをする子）から成り立っています。観衆はもちろん傍観者も加害者になります。観衆、傍観者は加害者を凶にのらせていじめをエスカレートさせるからです。傍観者が仲裁者（いじめを止めに入る子）にかわっていかなければなりません。



国立教育政策研究所/文部科学省編「平成 17 年度教育改革国際シンポ「子どもを問題行動に向かわせないために」報告書より

傍観者がいじめの大きな役割を果たしています。イギリスやオランダでは、成長するにつれて傍観者が減っていきます。その代わりに仲裁者が増えていくのです。日本の子どもたちは、あたかも傍観者として育っていくことが成長であるかのような増え方をしています。クラスメートがいじめられていて悩んでも、手をさしのべもせず、見て見ぬふりをすることが大人になることであるかのような成長曲線にも見えてきます。



三木市子どもいじめ防止センターでは、このセンターだより等を通じて、何度も

「傍観者の立場はいじめをエスカレートさせる加害者の仲間です」と訴えています。

いじめは、大人の目に触れない所で行われることが多いのです。加害者はいじめは悪いことだと分かっています。被害者は誰かに言うとよけいにいじめられると思ったり、親に心配かけたくないと思ったり、いじめられる自分の立場をはずかしがったりして、「いじめられている」と言い出しにくいですね。

いじめを一番見つけられるのは、仲間である君たち小・中学生です。いじめを止めるのは勇気のいる行動ですが、STOPさせる方法はいろいろあると思います。どんな小さいいじめの芽を見た時でもまずは、大人に伝えてください。

学校の先生方もいじめをなくすために一生懸命勉強されていますよ。

もちろん、子どもいじめ防止センターも活用してください。



ピンクのシャツでいじめ反対！

2007年にカナダの男子中学生が「ピンク色のシャツを着ていた」という理由でいじめを受けました。それを聞いた上級生2名がピンクのTシャツを75枚買い込み「明日学校でピンクのシャツを配るから一緒に着よう」とメールで同級生に呼びかけました。呼びかけはすぐに広まり、次の朝は、手持ちのピンクのシャツを着たり、ピンクの小物を身に着けた生徒であふれました。それ以後学校からはいじめは無くなりました。性別によって色が決まるのではなくて自分が本当に好きな色を身に着けられる世の中になってほしいですね。その次の日、地元新聞で報道され、賛同者はまたたく間にカナダ全土に広がりました。今では世界中にこの運動が広がっています。



ピンクシャツデー運動は、何もピンクのシャツを着る必要はありません。「いじめを見たら、一人でも立ち上がってほしい。いじめ反対の意思表示をしよう。アクションをおこそう」と呼びかけています。見て見ぬふりをする傍観者になるのではなく、先生や親など信頼のおける大人や、子どもいじめ防止センターなどにいじめの存在を伝えたり、この運動を起

こした人たちのように友達と相談していじめ反対の仲間を増やしたり、何かしらの手段や方法を見つけようというものです。

世界の研究データや専門家が示すように傍観者が変われば、いじめはかなり減らすことが可能だと言われています。



子どもいじめ防止センターでも、この運動に賛同して、このセンターだよりの13号からずっとピンクの紙で印刷しています。

「いじめ」で悩んでいませんか？
 まずは「でんわ」か「メール」をしてください。
 みきしこ 三木市子どもいじめ防止センター
 でんわ: **0794-82-8110**
 メール: ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp
 げつようび きんようび ごせん ごご
 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時
 祝日(しゅくじつ)・12/28～1/4はお休みです。

「いじめ」について話してみませんか？
 名前を言わなくてもかまいません。
 つらいこと、苦しいこと、話したいことはありませんか？
 いじめにあたり、いじめを見かけたりしたら
 あなたの話を聞かせてください。もちろん秘密は守ります。
 わたしたちはあなたを守りたいのです。
 いっしょに「いじめ」をなくしましょう。
 三木市子どもいじめ防止センター
 でんわ:0794-82-8110(月～金:午前9時～午後5時)
 メール: ijime_boshicenter@city.miki.lg.jp
 ひょうごっ子悩み相談センター ☎0120-0-78310(毎日:24時間)